

グラフでみる加工食品の 生産・販売・外食等の指標



目次

< グラフでみる "コロナショック"からの再生 >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

- ・家計調査からみた食の内部化・外部化



1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の調査対象のうち、特に今般の新型コロナウイルス感染症の影響が大きい品目の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

なお、詳細は、<https://www.fmric.or.jp/stat/index.html>

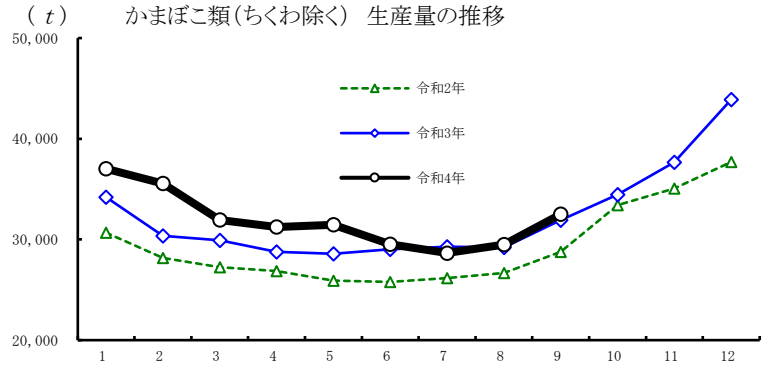
「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

9月 1.9% 増加

令和元年同月比 4.8% 増加

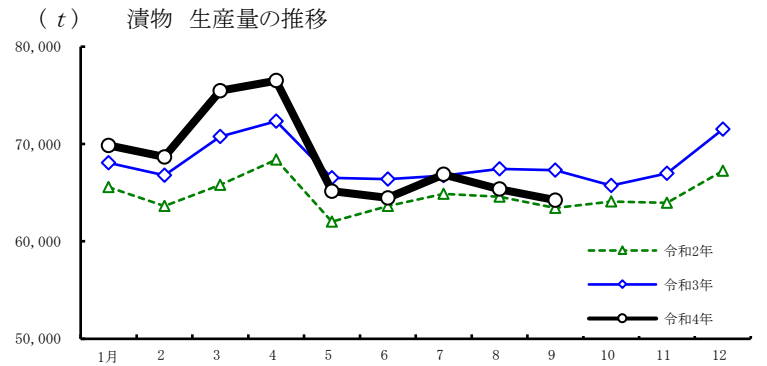


○ 漬物

生産量 対前年同月比

9月 4.6% 減少

令和元年同月比 7.4% 増加

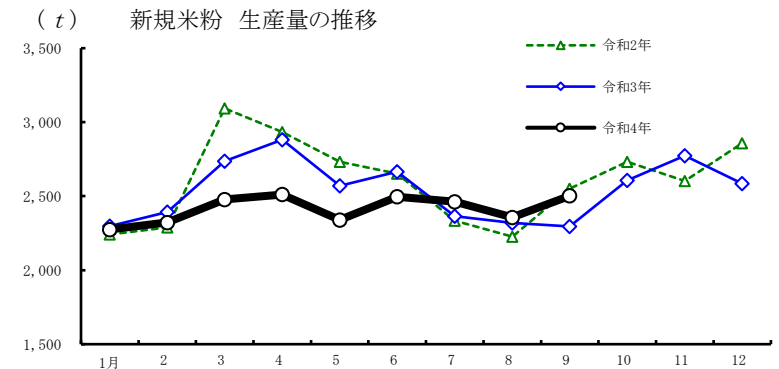


○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

9月 9.0% 増加

令和元年同月比 12.6% 増加

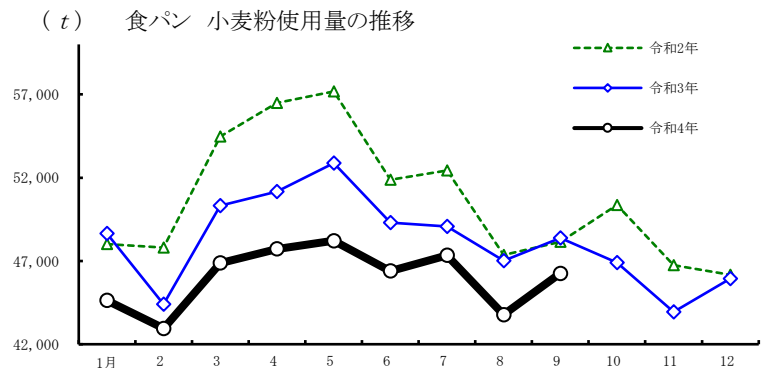


○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 4.4% 減少

令和元年同月比 4.0% 減少



1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

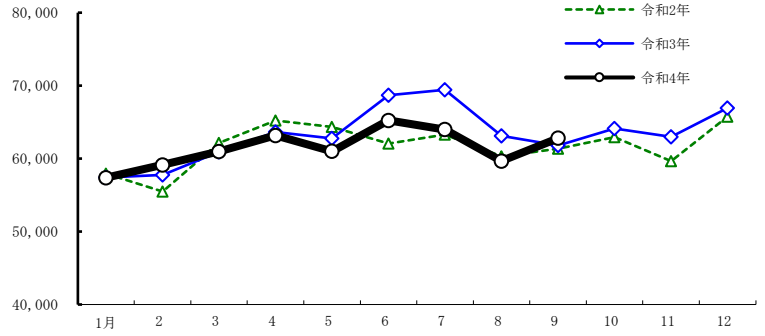
○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 1.7% 増加

令和元年同月比 7.3% 増加

(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移



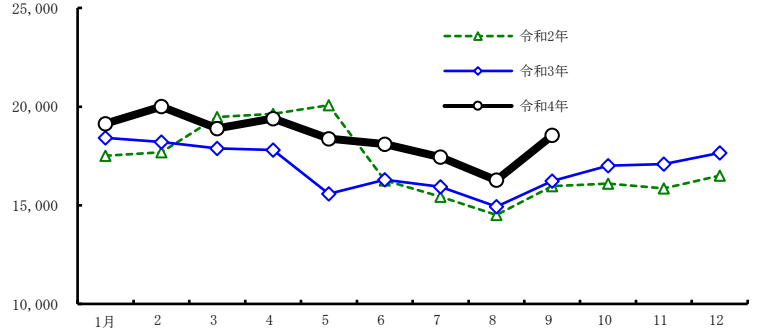
○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 14.3% 増加

令和元年同月比 12.3% 増加

(t) カップめん 小麦粉使用量の推移



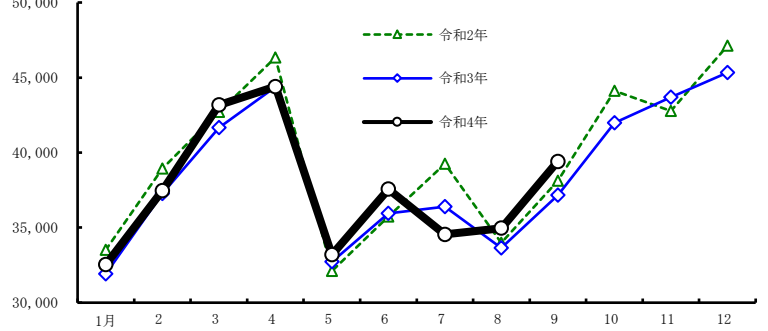
○ 味噌

生産量 対前年同月比

9月 6.0% 増加

令和元年同月比 1.3% 減少

(t) 味噌 生産量の推移



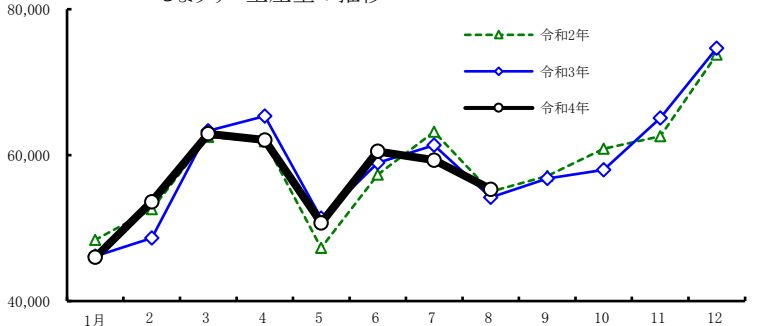
○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

8月 2.0% 増加

令和元年同月比 4.6% 減少

(kl) しょうゆ 生産量の推移



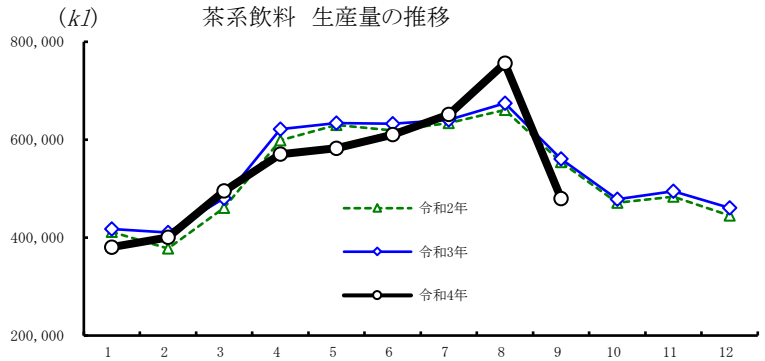
1. 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

茶系飲料

生産量 対前年同月比

9月 **14.4% 減少**

令和元年同月比 **18.5% 減少**

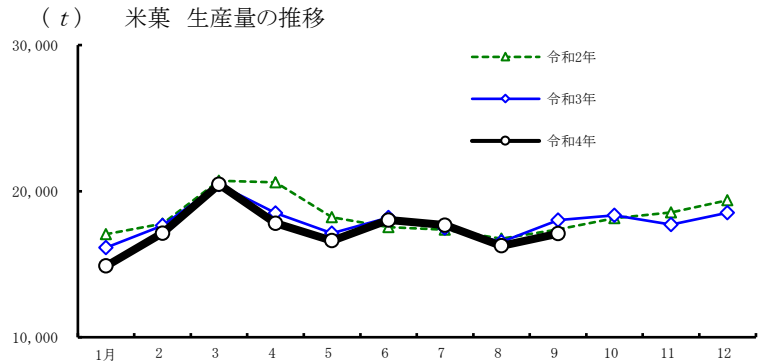


米菓

生産量 対前年同月比

9月 **5.2% 減少**

令和元年同月比 **4.4% 減少**

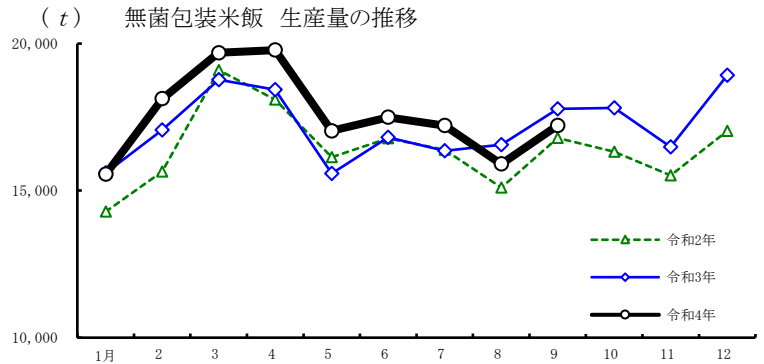


無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

9月 **3.2% 減少**

令和元年同月比 **6.9% 増加**

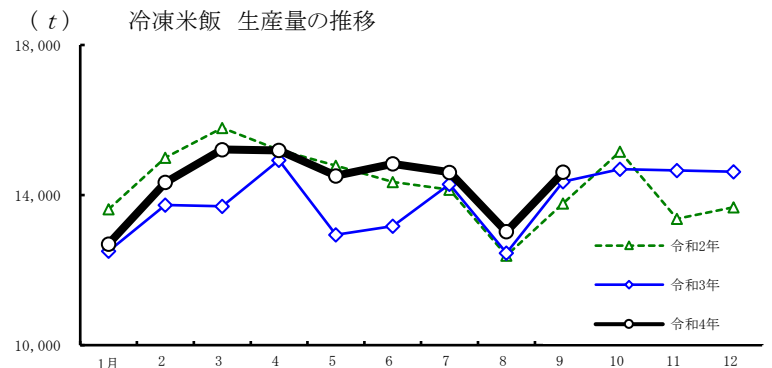


冷凍米飯

生産量 対前年同月比

9月 **1.8% 増加**

令和元年同月比 **6.4% 減少**



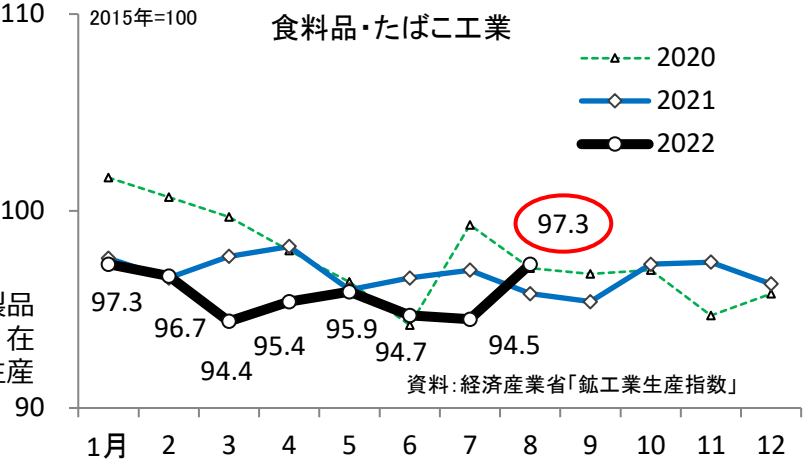
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ **食料品・たばこ工業**

生産指数 対前年同月比

8月 1.6% 増加

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



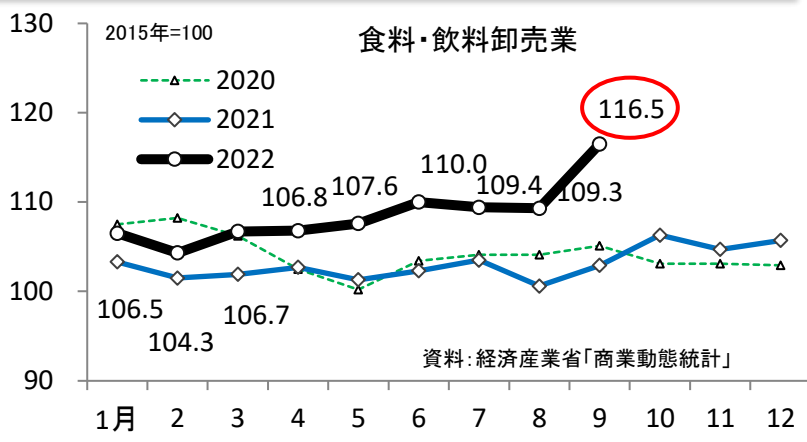
2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ **食料・飲料卸売業**

売上高 対前年同月比

9月 13.2% 増加

2019年同月比 3.0% 増加



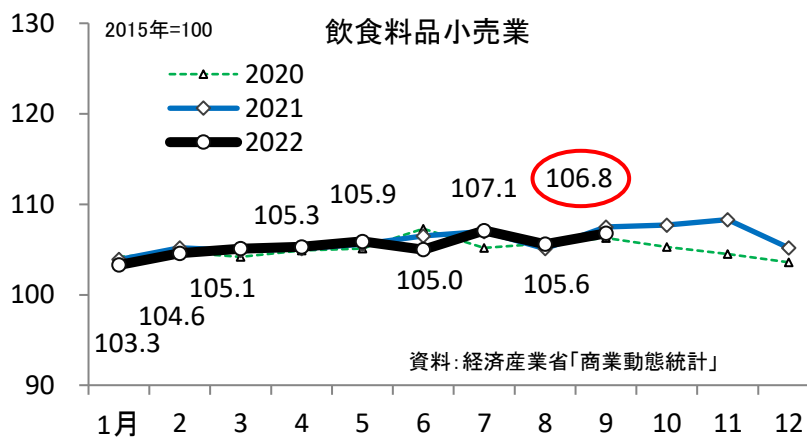
経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高（月次速報）について、みることができます。

○ **飲食料品小売業**

売上高 対前年同月比

9月 0.7% 減少

2019年同月比 1.4% 増加

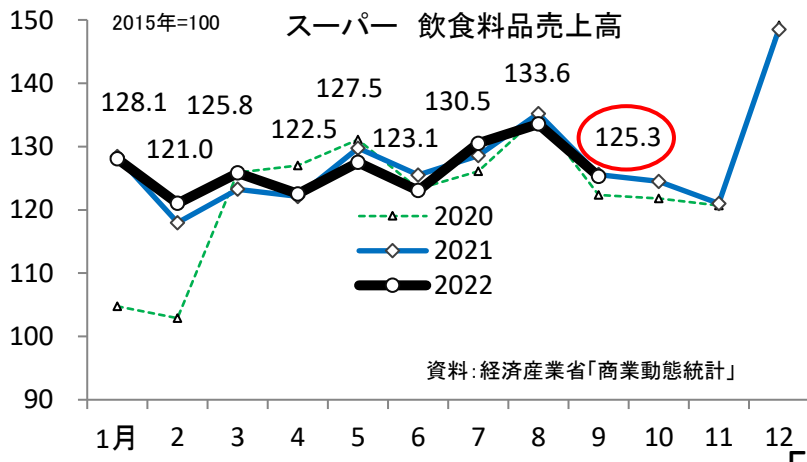


○ **スーパー**

飲食料品売上高 対前年同月比

9月 0.2% 減少

2019年同月比 19.5% 増加



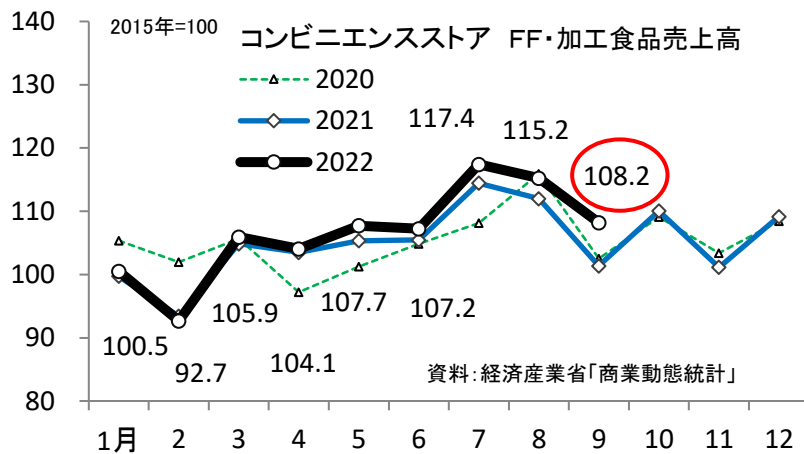
2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

9月 6.7% 増加

2019年同月比 3.1% 減少

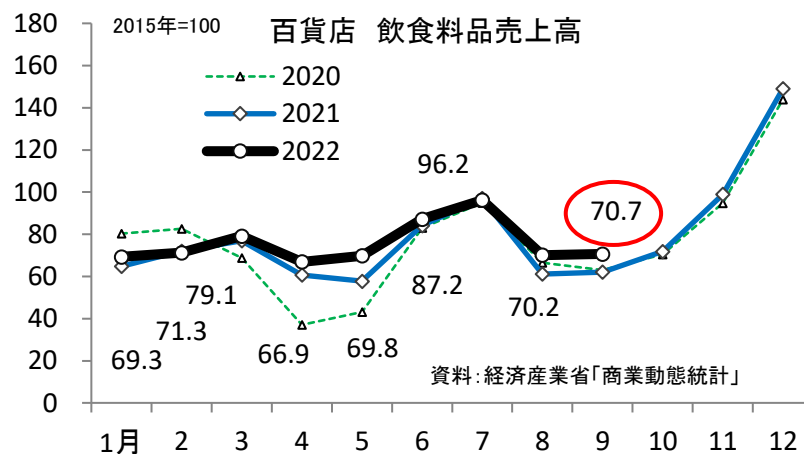


○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

9月 13.8% 増加

2019年同月比 4.7% 減少



3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

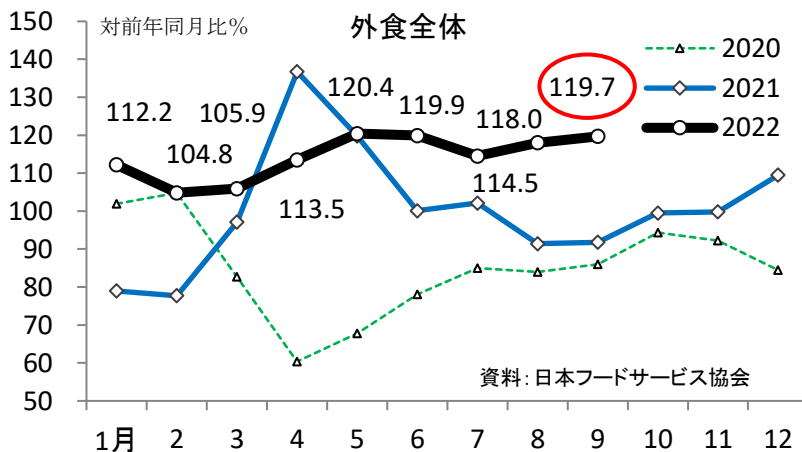
一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比

9月 19.7% 増加

2019年同月比 5.5% 減少



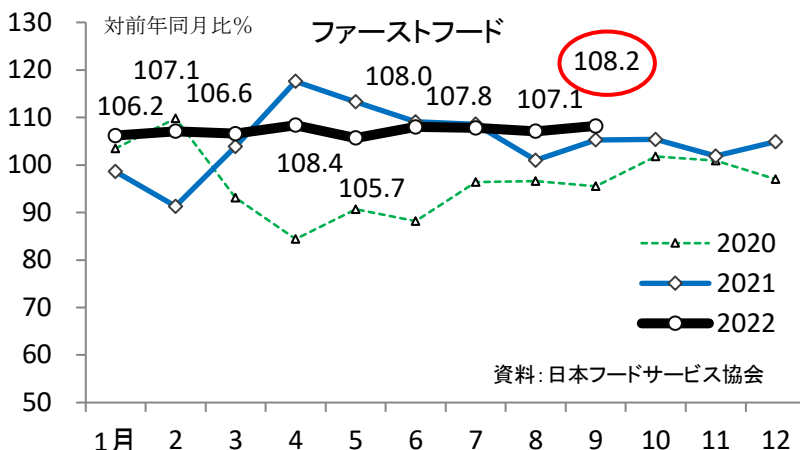
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

9月 8.2% 増加

2019年同月比 8.8% 増加

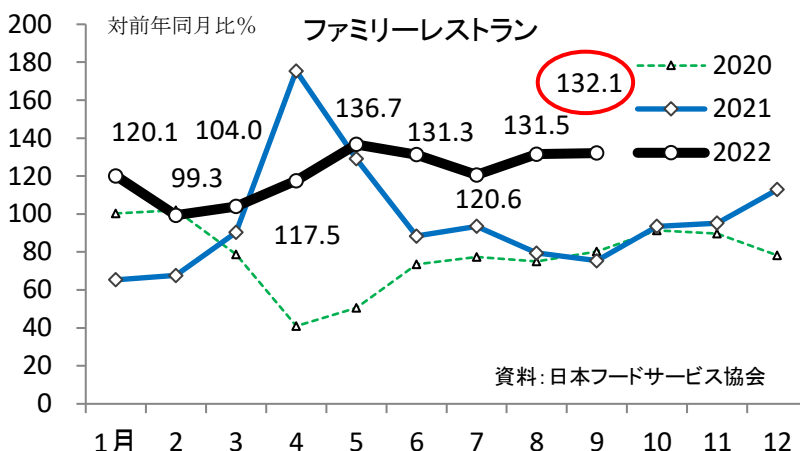


○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

9月 32.1% 増加

2019年同月比 20.0% 減少

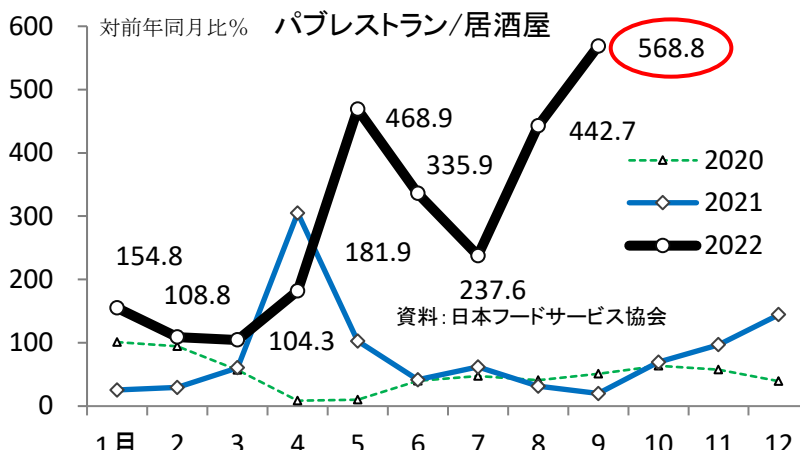


○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

9月 468.8% 増加

2019年同月比 43.0% 減少

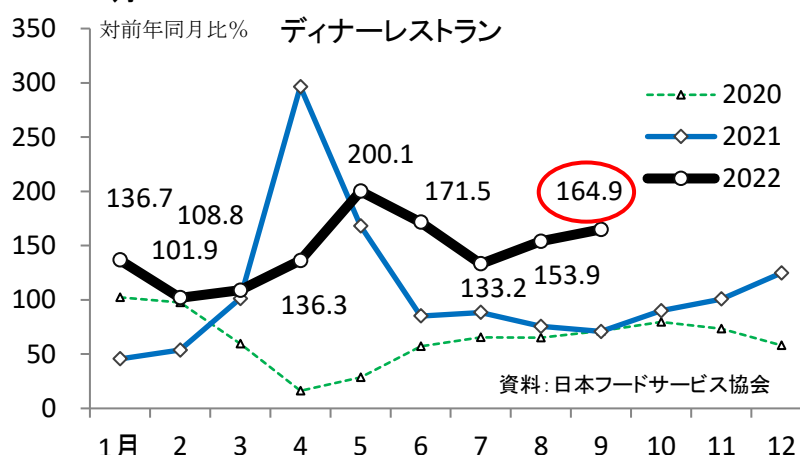


○ デイナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

9月 64.9% 増加

2019年同月比 16.9% 減少



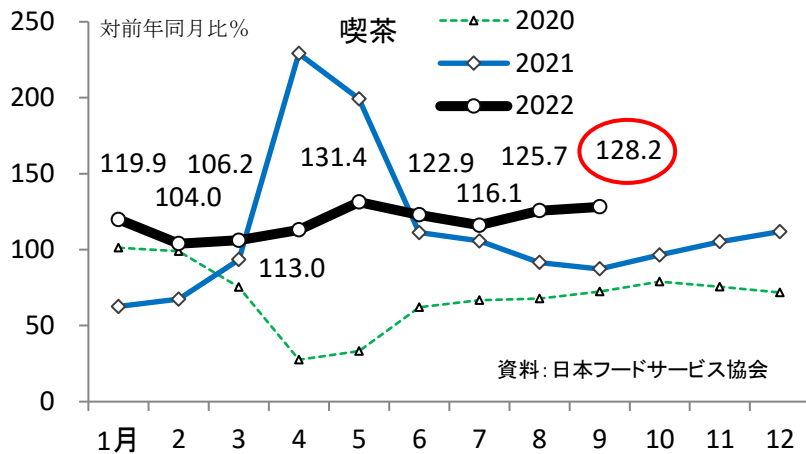
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

9月 28.2% 増加

2019年同月比 **18.9% 減少**



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

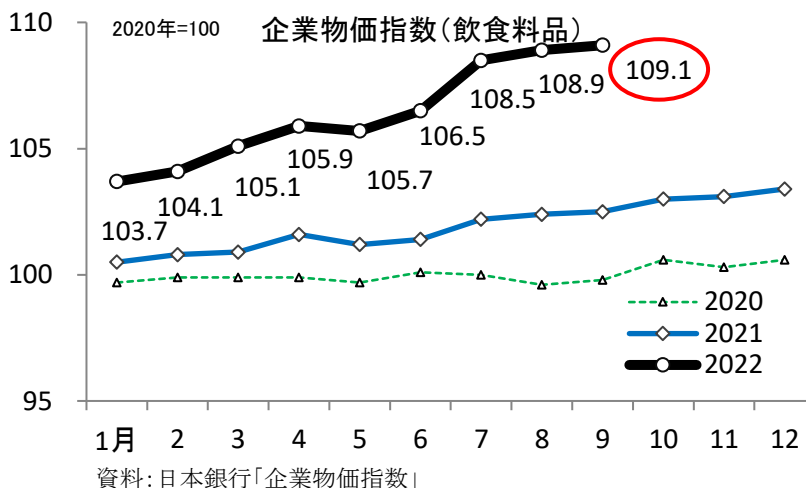
このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 (飲食料品)

飲食料品 対前年同月比

9月 6.4% 上昇



○ 消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

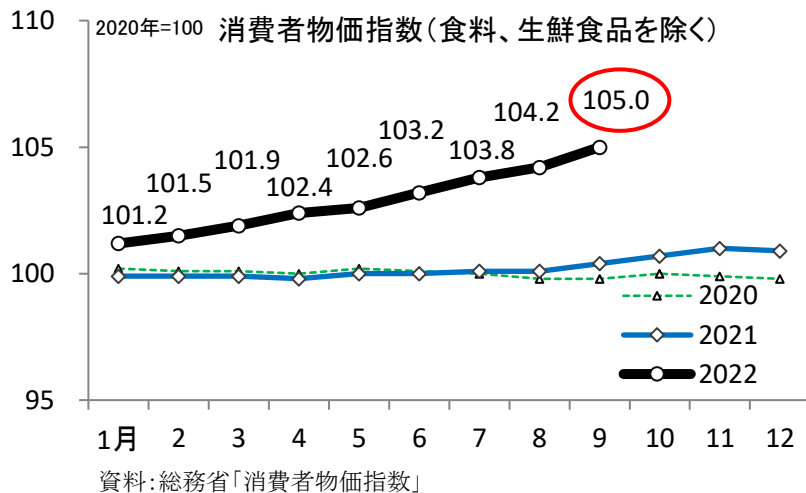
このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 (食料(生鮮食品除く))

食料 対前年同月比

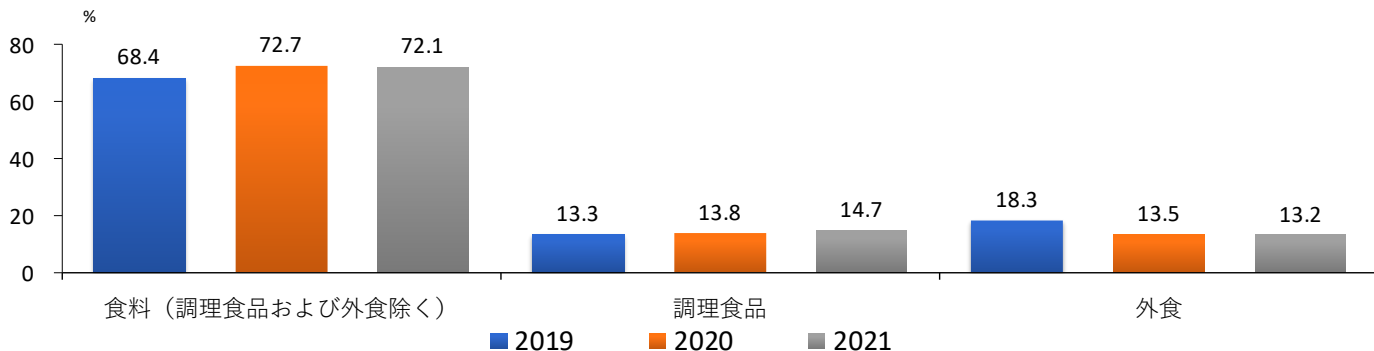
9月 4.6% 上昇



家計調査によれば、2020年の食の内部化率は、新型コロナウイルス感染症による巣籠もり需要から、4ポイント上昇した。一方、調理食品が順調に増加したものの、外食が減少したことから、食の外部化率は低下した。

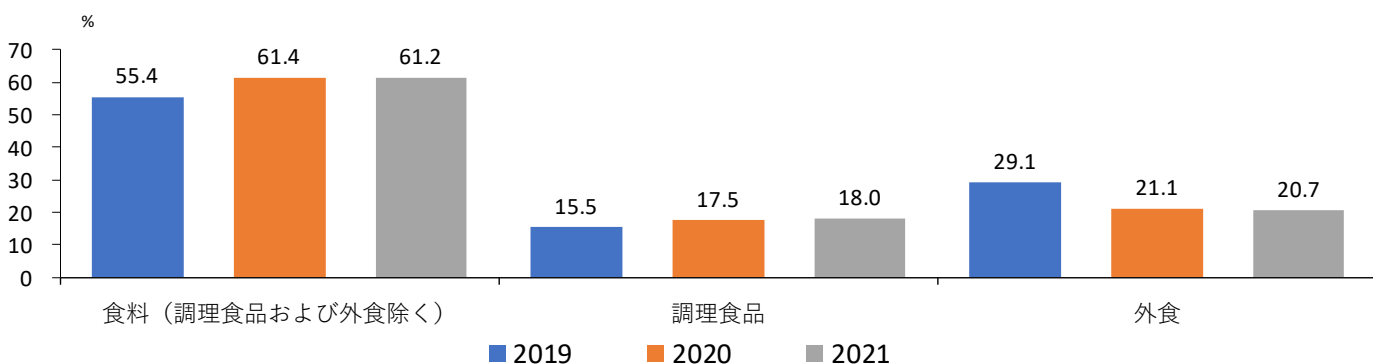
- 二世帯では、単身世帯に比べて食の内部化率が、2021年は平均11ポイント高い。
また、2019年対比で、2020年は食の内部化率が上昇し、2021年も継続。
同調理食品は増加し、外食は減少が続く。

図2 二世帯における食料、調理食品、外食の支出額構成割合



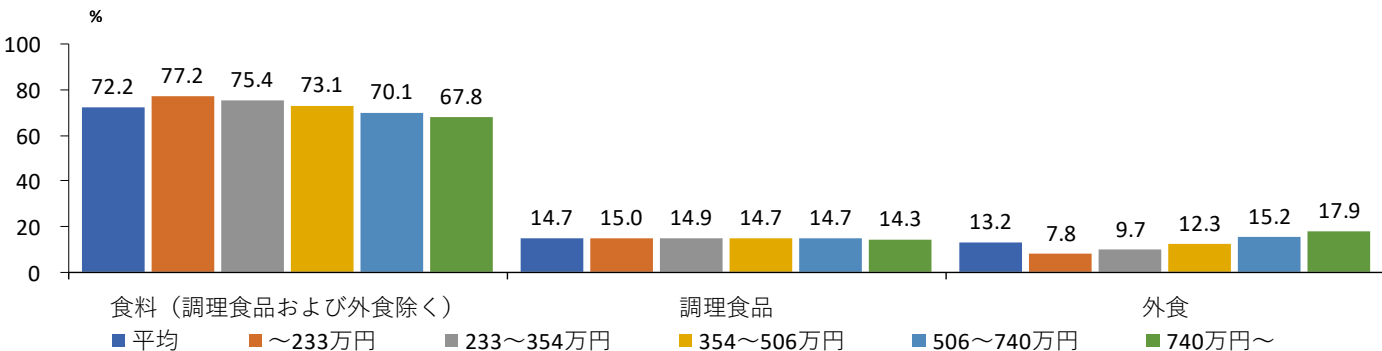
- 単身世帯では、二世帯に比べて食の内部化率が、2021年は平均11ポイント低い。
また、2019年対比で、2020年は食の内部化率が上昇し、2021年も継続。
同調理食品は増加し、外食は減少が続く。

図2 単身世帯における食料、調理食品、外食の支出額構成割合



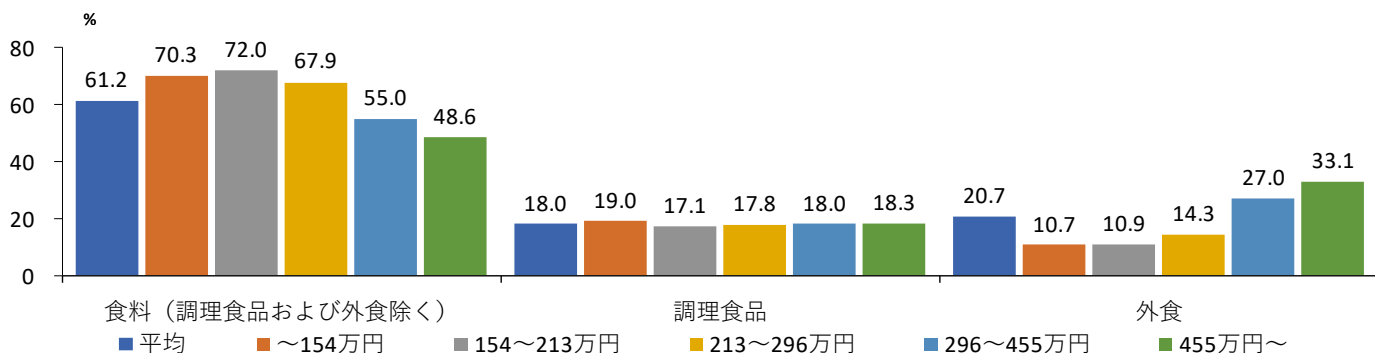
- 二世帯では年収が高いほど、食の内部化率が低い。
また、年収が高いほど食の外部化率が高い。
うち、調理食品の購入割合は年齢に関係ないことがわかる。

図3 二世帯における年収別の食料、調理食品、外食の支出額構成割合「2021年」



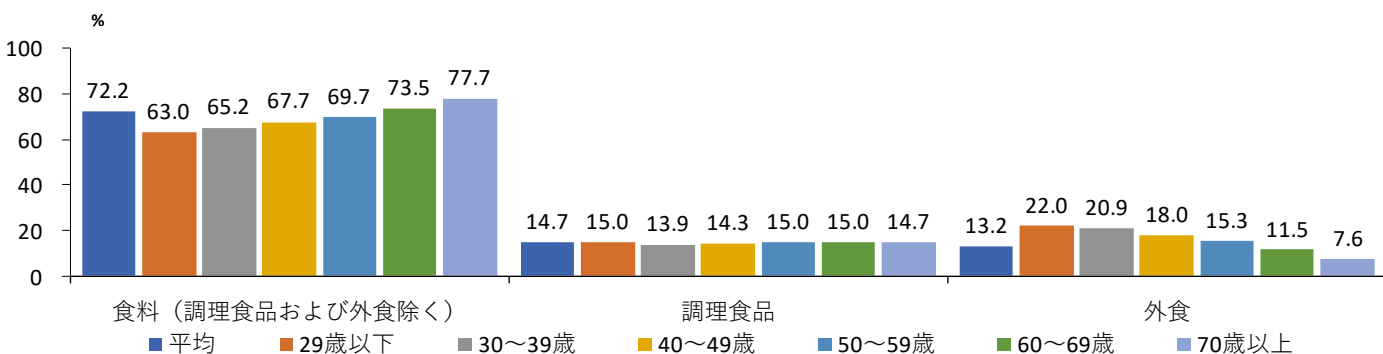
- 単身世帯では年収が高いほど、食の内部化率が低い。
また、年収が高いほど食の外部化率が高い。
うち、調理食品の購入割合は年齢に関係ないことがわかる。

図4 単身世帯における年収別の食料、調理食品、外食の支出額構成割合「2021年」



- 二世帯では年齢が高いほど、食料購入割合が高いことから、食の内部化率が高い。
また、年齢が低いほど食の外部化率が高く、年齢が高いほど食の外部化率が低い。
うち、調理食品の購入割合は年齢に関係ないことがわかる。

図5 二世帯における年齢別の食料、調理食品、外食の支出額構成割合「2021年」



- 単身世帯では年齢が高いほど、食料購入割合が高いことから、食の内部化率が高い。
特に34歳以下は、65歳以上に比べて30ポイント以上低く、差が大きい。
また、年齢が低いほど食の外部化率が高く、年齢が高いほど食の外部化率が低い。

図6 単身世帯における年齢別の食料、調理食品、外食の支出額構成割合「2021年」

